

一 ハムレット (一六〇〇〜) 人気度と派生作品の多さはまさに別格!

シェイクスピアの派生作品中、『ハムレット』がなんとその四分の一を占めている。原作戯曲からさらに何本もの戯曲が生まれ、そのどれもがユニークで完成度も高く面白い。ほかに長編・短編の小説、正統からパロディに至る多彩な映画、さらには音楽や絵画、歌舞伎までジャンルは幅広い。理由はいろいろ考えられるが、叔父が父を殺したことを確信しながら、なぜすぐに復讐を決行しないのかなどの矛盾が、想像力を掻き立てるからではないだろうか。

あらすじ

デンマークの首都エルシノアでは、王の死に伴って弟クロード・ディアスが王となり、先王の妻ガートルードを妃とした。父を尊敬していた王子ハムレットには、父の死から二カ月も経たないのに義弟と再婚した母が許せない。先王の亡霊を見た親友ホレイシヨに教えられたハムレットは、夜遅く城の歩廊で父の亡霊に会い、庭園で午睡中、弟クロード・ディアスに毒液を耳に流し込まれて殺害されたと教えられて復讐を誓う。彼は気持を覚られぬよう狂気を装うが、それを不審に思った王は王子の学友ローゼンクランツ(ロズ)とギルデンスターン(ギル)に、ハムレットの様子がおかしいのでそれとなく原因を探るよう命じる。一方、宰相ポロニアスは王

に、ハムレットの狂気は自分の娘オフィーリアへの恋が原因であろうと報告する。

旅の一座がエルシノア城に到着したので、王クロード・ディアスが父の先王を殺した確かな証拠を得るためハムレットは一計を案じた。一座の芝居「ゴンザーゴ殺し」に、秘かに亡霊の語った毒殺の場面を追加させ、クロード・ディアスの反応で確認しようと思ったのである。

ハムレットの狂気が本当なのか見せかけなのかを知りたい王は、ハムレットとオフィーリアの会話を物陰から窺うため、ポロニアスと壁掛けの後ろに隠れる。二人のやりとりから真意を見抜けなかった王は、ハムレットを遠ざけることにしてイギリスに遣ることを考える。

城の大広間で「ゴンザーゴ殺し」が始まった。ハムレットが付け加えた毒殺場面を見た王が顔色を変えて退場したので、彼は王が先王を殺害したと確信する。身の危険を感じた王は、ハムレットをただちにイギリスに送ることにし、ロズとギルを同行させることにした。

妃の居室でハムレットが、父を殺した王と再婚した母をきつく非難すると、壁掛けの陰で声がした。クロード・ディアスだと思って刺し殺すと、王ではなくポロニアスであった。ハムレットはさらに激しく母を非難する。ハムレットが自分と勘違いしてポロニアスを殺したと妃から聞いた王は、一刻の猶予もならないとハムレットのイギリス行きを命じた。イギリス国王にハムレット殺害を依頼した文書をロズとギルに持たせ、今夜中に出帆するよう厳命する。デンマークの港に近い広野では、軍隊を率いたノルウェー王子フォートインブラスが、デンマー